

soikuru

サイクル

SAIKURUとは

地域及び連携医療機関とのつながり(サークル、サイクル)を大事に、患者さんを中心とした医療を提供していきたいという意味を込めています。

済生会熊本病院

心臓血管外科の今

心臓血管外科では、大動脈瘤の治療として、開胸・開腹手術の他、低侵襲治療の「ステントグラフト内挿術」を積極的に実施しています。2003年に開始してからこれまで、582例のステントグラフト内挿術を実施しました(2018年3月1日現在)。

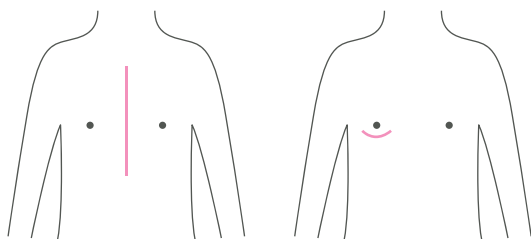
その他、人工心肺を用いない冠動脈バイパス手術、TAVI、下肢静脈瘤に対する日帰りのレーザー治療などの低侵襲治療を行っております。中でも、僧帽弁逆流症に対するMICS(Minimally Invasive Cardiac Surgery、小切開心臓手術)は、内視鏡と3Dカメラを用いることで、胸骨を切開することなく治療が可能です。傷口が従来より小さく、術後の痛みが少ないため、社会復帰が従来の約3分の1(2週間~1か月)程度と短いことが特徴です。これらの低侵襲治療の導入は、患者さんの選択肢の幅を広げ、QOLの向上が期待できます。

また、急性大動脈解離や心室中隔穿孔などの、緊急手術を必要とする重症な心血管疾患に対しても、従来通り対応していきます。心臓血管外科創設35年の歴史を踏まえ、これからも地域医療への貢献に向けて精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲心臓血管センター 心臓血管外科の医師(現在9名が所属しています。)

従来の心臓手術とMICSの切開イメージ



従来の心臓手術

MICS(小切開心臓手術)

お知らせ

心臓血管センターの動画が完成しました。当院のFacebookから閲覧できます。ぜひご覧ください。



▲QRコードからも視聴できます



開催報告

2018年2月16日(金)

さいくま健康セミナー「冬こそご用心!心臓病と突然死」

2018年2月16日(金)、当院の外来がん治療センター・コンベンションホールにて、さいくま健康セミナー(第3回ハートセミナー)「冬こそご用心!心臓病と突然死」を開催致しました。院長挨拶の後、当院の循環器内科の医師2名より講演を行いました(座長:宮本副部長)。

当日は30代から90代まで、74名の地域住民の方に参加いただき、会場からの質問も多く、盛会となりました。

ご参加いただいた方へ、この場を借りて御礼申し上げます。



講演1 「冬場に多い!心筋梗塞と狭心症」
曾根 麻衣子(循環器内科主任医員)

講演2 「心筋梗塞・狭心症とカテーテル治療」
田口 英詞(循環器内科医長)



▲講演中の様子



▲座長の宮本信三医師(循環器内科副部長)